

農作物技術情報 第4号 畑作物

発行日 令和5年 6月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当(電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 小麦 小麦の刈取りは、6月下旬から県中南部を中心に始まっています。子実水分を確認し、雨を避けて適期刈取りに努めましょう。また、倒伏した圃場や赤かび病が多発しているなど、品質に問題があるものは刈分けし、良質な小麦に混入させないようにしましょう。収穫・調製時に圃場の土が収穫物に付着しないよう注意しましょう。
- ◆ 大豆 6月中旬に降雨が続いた影響により、播種作業に遅れがみられました。降雨による滞水が生じないように、排水溝等を確認しましょう。中耕は、土壌処理除草剤の効果がなくなり、雑草が発生し始めてから行います。培土は、倒伏防止や、根系への酸素供給などに効果があります。株元までしっかり土を寄せて、収穫時に土を噛み込まないように、高さが一定になるように行いましょう。

小麦

1 生育概況

出穂期が平年より7日程度早まったことから、成熟が平年より早まり、県南部の早いところでは6月21日から収穫作業が開始されました。

2 収穫作業の事前準備

- (1) 実際に穂を手にとって、子実水分を確認し、収穫の適否を判断します。
- (2) カントリーエレベータや共同乾燥施設を利用して乾燥調製を行う場合は、受け入れ時間や荷受け水分を前もって確認しておきます。
- (3) 品質低下を防ぐために、事前に倒伏圃場や赤かび病の発生状況を確認し、刈取りの順番を決めておきます。

3 収穫作業の注意点

(1) 刈取りできる子実水分

成熟期になったら、子実水分を確認し、概ね30%以下になったら速やかに刈取りを行います。なお、普通型コンバインでは35%前後から、自脱型コンバインでは30%以下から収穫が可能です。



写真1 子実水分30%の小麦



写真2 県南部でのコンバイン収穫

(2) 子実水分の確認

子実水分は、1日大きく変動します。晴天には1日に2～2.5%程度低下するとされていますが、風がある条件では5%以上低下することもありますので、水分計でこまめにチェックします。

(3) 刈分けの実施

降雨等で倒伏がひどい圃場や赤かび病等で品質に問題のありそうな場合は、刈分けし、良質な小麦への混入を避けてください。

(4) 異物混入の防止

収穫・調製時は、圃場の土を収穫物に付着させないように注意します。また、収穫時にコンバインによる土の噛み込みを防ぐため、できるだけ高刈りし、万一コンバインのヘッダ部に土を噛み込んだ場合は、作業を止めて清掃を行ってください。

収穫した小麦を運搬する場合は、急な降雨や異物の混入を防ぐため、シートをかけてください。

※ 高水分小麦の収穫について

最近では自脱型コンバインの性能が向上し、水分の高い小麦を収穫できる機種も登場してきました。しかし、水分が高いと収穫時に粒がつぶれたり、乾燥時に退色粒が発生しやすくなります。やむを得ず高水分での収穫を行う場合には、作業速度や回転数を抑え、ていねいに作業を行い、刈取り後はできるだけ早く（1時間以内）乾燥作業に入ってください。

4 乾燥作業の注意点

収穫された麦をそのまま長時間放置すると、変質し、異臭麦や熱損傷が発生します。刈取り後はできるだけ早く乾燥機へ搬入します。また、乾燥機的能力にあわせて収穫作業をすすめ、速やかに乾燥を行います。

(1) 送風温度

送風温度は、子実水分が高いほど低く設定します。子実水分35～30%では送風温度40℃以下、子実水分30%以下では送風温度50℃以下とします。穀温が40℃を超えないように適宜様子を見てください。

(2) 送風温度の注意点

高温で急激に乾燥すると、熱損傷や退色粒が発生する場合があります。

(3) テンパリング

水分が高いほど1回当たりのテンパリング時間は短く設定します（子実水分30%前後では1時間以内）。

(4) 張り込み量

乾燥機への張り込みは、循環型乾燥機では子実水分が30%以下の場合は容量どおりの張り込み量としますが、水分が高い場合は容量の7～8割程度とします。平型では堆積の高さを20cm程度に抑えてください。

(5) 二段乾燥の実施

二段乾燥を実施する場合、水分が17～18%程度になるまで一次乾燥してからビンやサイロに貯留しますが、カビ等の発生を防ぐため、通風により穀温は20℃以下に下げた後から貯留します。また、仕上げ乾燥は一時貯留から3～4日以内に行います。仕上げ水分は12.5%以下です。

大豆

1 生育概況

5月下旬から6月上旬にかけて好天が続いたことから、大豆の播種作業は順調に進んでいましたが、梅雨入り（6/11 ごろ）以降断続的な降雨により、播種作業が遅れたところもみられました。

適期に播種された圃場では、出芽・初期生育は概ね良好です。



写真3 出芽した大豆（6月上旬播種）

2 排水対策の確認

大豆の生育初期は湿害に弱く、ちょうど梅雨時期と重なるため、圃場に滞水部分が出来ないよう排水対策は念入りに行います。明渠や水尻にゴミなどの詰まりや崩れがないか確認し、排水口（フリードレン下部）の掘り下げなどを実施します。

生育初期とは逆に、生育後期の大豆は要水量が多く、開花期に高温・乾燥が続くと着莢数の減少により減収することがあります。そのような干ばつ時には、排水対策として設置した明渠や排水溝を、畦間かん水に使用できます。



写真4 排水口まで掘り下げ

3 中耕・培土

(1) 実施時期

中耕・培土は、大豆の2～3葉期に1回目を実施することが一般的です。土壌処理除草剤の効果がなくなり、雑草が発生し始めたら早めに行います。

(2) 中耕・培土の作業上の留意点

培土作業は収穫時に土を噛み込まないよう高さを揃え、株元まで土がかかるように行います。

(3) ディスク式中耕除草機

ディスク式中耕除草機を用いると、土壌水分の比較的高い水田転換畑でも作業が可能です。岩手県農業研究センターでは、ディスク式中耕除草機について、その除草効果を高めた改良型ディスク式中耕除草機および播種への活用を含めた一貫体系を研究成果として発表しています。詳しくは最寄りの普及センターあるいは農業研究センターまで問い合わせください。

(H25年 指導) 水田大豆の畦立て栽培に適応できる改良型ディスク式除草機の効果

https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/_page_/002/004/802/h25shidou_06.pdf

(H26年 普及) ディスク式畑用中耕除草機を活用した大豆の一貫栽培体系

https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/_page_/002/004/599/h26fukyu_01.pdf

「改良型ディスク式除草機の組み立てマニュアル」

https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/_page_/002/004/371/josouki_manual.pdf

4 生育期の除草剤散布

近年、広葉雑草を対象として、大豆の生育期に全面散布できる除草剤や、畦間あるいは畦間・株間に処理できる非選択性除草剤の登録が増えてきました。発生する草種や発生量を確認し、効果のある剤を遅れずに散布してください。特に難防除雑草が年々増加傾向にありますので注意が必要です。

生育期の広葉雑草を対象とした除草剤の使用法と留意点は、以下のとおりです（表1、図1）。

表1 生育期に使用できる除草剤の使用法と留意点

| 薬剤名 | 使用時期 | 使用方法 | 使用上の留意点 |
|------------------------------------|-------------------------------------|------------------------|--|
| パワーガイザー液剤 (イマザモックスアンモニウム塩液剤) | 出芽直前～3葉期まで(雑草発生始期～2葉期) | 雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布 | (1) 初生葉期以降の散布では一時的な薬害を生じることがある。 (2) 周辺作物に散布液が飛散すると薬害を生じることがある。 (3) 有機リン系殺虫剤またはイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は薬害の恐れがあるので避ける。 |
| アタックショット乳剤 (フルチアセットメチル乳剤) | 本葉2葉期～開花前(雑草生育期)但し収穫45日前まで | 雑草茎葉散布 又は 全面散布 | (1) 選択性除草剤であり、作物の上から散布できる。 (2) 散布器具として既存の器具が使用可能である。 (3) イネ科雑草には効果がない。 (4) 大豆バサグラン液剤はシロザ・ツユクサ・イヌビユ・エノキグサ等に対する効果が不安定であり、アタックショット乳剤はキク科、カヤツリグサ科への効果が不安定である。 (5) 散布後に発生する雑草に対して効果がない。 |
| 大豆バサグラン液剤 (ナトリウム塩) (ベンタゾン液剤) | だいたいの2葉期～開花前(雑草の生育初期～6葉期)但し収穫45日前まで | 雑草茎葉散布 又は 全面散布 | (1) 非選択性除草剤であり、作物に飛散させないように十分に注意する。 (2) 散布器具として吊り下げの専用ノズルが必要であり、飛散防止用カバーを用いて散布することが望ましい。 (3) 大豆バサグラン液剤やアタックショット乳剤では効果がないイネ科雑草や効果が不安定な草種が優占するほ場でも効果が高い。 (4) 散布後に発生する雑草に対して効果がない。 |
| ラウンドアップマックスロード (グリホサートカリウム塩液剤) | 収穫前日まで(雑草生育期：畦間処理) | 雑草茎葉散布 (畦間処理) | (1) 非選択性除草剤であり、本葉に飛散させないように十分に注意する。 (2) 散布器具として吊り下げの専用ノズルが必要である。 (3) 畦間及び株間の雑草に対して効果が期待できる。 |
| バスタ液剤 (グルホシネート液剤) | 収穫28日前まで(畦間・株間処理：本葉5葉期以降雑草生育期) | 雑草茎葉散布 (畦間・株間処理) | (1) 非選択性除草剤であり、本葉に飛散させないように十分に注意する。 (2) 散布器具として吊り下げの専用ノズルが必要である。 (3) 畦間及び株間の雑草に対して効果が期待できる。 |

※アタックショット乳剤及び大豆バサグラン液剤は、選択性除草剤であるが薬害を生じさせやすい薬剤のため、使用にあたっては農業改良普及センター等指導機関の指導を受け、十分に効果・薬害を理解した上で使用者の自己責任において使用ください。

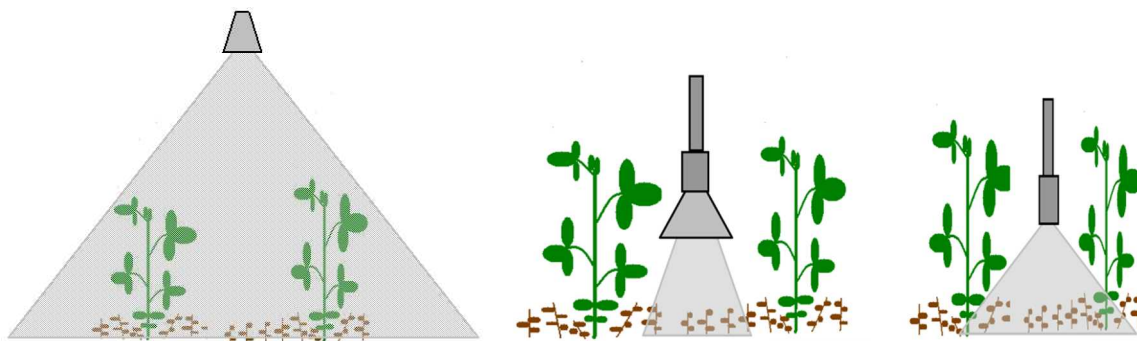


図1 生育期に使用できる除草剤の散布イメージ
 (左：全面散布 中：畦間処理 右：畦間・株間処理)

【資料利用上の注意】

- この資料に掲載している農薬の情報は、令和5年6月23日現在の農薬登録情報に基づいています。
- 農薬は使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任をもって使用してください
 (資料作成年月日：令和5年6月23日)

次回の発行予定日は7月27日(木)です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しています。発行年月日を確認のうえ、最新の情報をご利用ください。

農業普及技術課農業革新支援担当は、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

**6月1日～8月31日は
 農薬危害防止運動期間です**

- 農薬散布時は、近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬は適切に保管・管理しましょう